

アジア多国籍医師団構想報告（

代表 菅波茂

会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか

自然災害や難民に対して国際緊急救援医療チーム派遣を目的とした「アジア多国籍医師団構想」が現実化してきています。

「アジア多国籍医師団構想」の特徴をあらためて説明いたします。

- 1) 自然災害や難民に対する緊急救援医療活動である。
- 2) アジアの多様性（多言語／多文化／多宗教）をふまえた現地のニーズに対応できる。
- 3) アジア参加国による対等な人的貢献である。

さて、上記の3点をふまえて、バングラデッシュのミャンマー難民緊急救援医療プロジェクトを開始いたしました。この3月27日より先発隊がそして4月10日から第一次医療隊が現地に出発いたしました。慌ただしい準備のため皆様への連絡報告が遅れましたことをお詫び申し上げますと共に、現在までの経過を報告いたします。

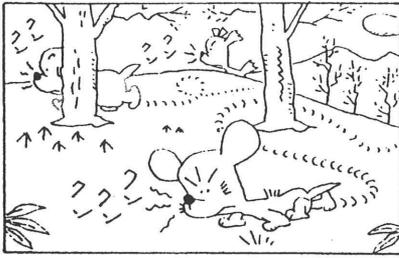
1991年6月東京で開催されたAMDA-Japanの総会で菅波茂代表より初めて「アジア多国籍医師団構想」が提出されました。続いて1992年1月にバンコックで開催されたAMDA-Internationalの9カ国代表者会議で正式にAMDA-Internationalのプロジェクトとして決定されました。正式発足は1993年5月の予定にしています。1992年は準備期間として位置づけています。

1992年の2月頃より、新聞報道に見られますように、バングラデッシュのミャンマー難民の問題が顕著化してきました。3月に入りAMDA-BangladeshのDr.Nayeem（東京大学医学部第2外科留学中）よりAMDA-Bangladeshのリーダーシップのもとにアジア多国籍医師団を派遣することが提案されました。

急遽、AMDA-Japanの執行部会を開催してAMDA-Bangladeshに協力して医療チームを編成して派遣することに決定しました。同時にAMDA-Nepal, AMDA-PhilippinesそしてAMDA-Indiaにも参加要請をいたしました。

4月10日現在の時点でAMDA-Japanより8名、AMDA-Nepalより3名、AMDA-Bangladeshより10名が参加予定です。経過によっては他の支部にも参加を要請する予定です。

パイサケ



アジア諸国の医師らでつくる「アジア医師連絡協議会」(本部・岡山市、菅波ら大量の難民が流入している「アジア医師連絡協議会」)は、ミャンマーからバングラデシュに、バングラデシュ、ネパール、日本

ミャンマー難民に医療隊 アジア医師 連絡協議会 バングラに派遣

3カ国5人

国際医療援助隊を派遣する。二十七日に先発隊、四月十日に医療隊が出発する。国際的な医療ボランティア団体としては、フランスに本部を置く「国境なき医師団」などがあるが、同会はアジアの災害や難民救済のための「アジア多国籍医師団」構想を提言してお

り、今回はその初の活動として、同会によると、多数の難民が集まっているバングラデシュのチッタゴンに医療キャンプを開き、緊急医療や予防接種、健康教育活動などをするといい。

先発隊がチッタゴンで予備調査したあと、第一次医療隊三人が日本を出発する。先発隊と医療隊には日本医師二人、日本に留学中のバングラデシュの医師二人とネパールの医師一人が参加する。アジア医師連絡協議会は一九七九年、タイのカンボジア難民キャンプで一緒に活動した医師らの交流をきっかけに発足した。現在アジア十三カ国に支部があり、会員四百人のうち日本人が二百人。

同会副代表の医師小林米幸さん(神奈川県大和市)は「日本人だけの医師団では相手の習慣などがわからず、ニーズにあった援助ができなかった面もある。今回は現地の言葉と日本語がわかる留学生が参加するので充実した活動が期待できる」と話している。薬の購入費などにあてるための募金も募っている。連絡先は菅波茂代表(〇八六二一八四一七六七)か小林さん(〇四六二一六三一三三〇)。

Doctors network to help Asians

OKAYAMA — A doctors' network will begin to dispatch international teams in May next year to Asian countries in need of medical assistance.

The Association of Medical Doctors for Asia (AMDA), based in Okayama City, was set up in 1984 by Shigeru Suganami, a local hospital director. Some 400 doctors from 13 Asian countries have joined the organization, which operates on membership fees and donations from businesses.

The AMDA has been offering its hand to victims of disasters like the Gulf war and volcanic eruptions in the Philippines as well as creating a medical service system for foreigners in Japan.

The AMDA will form an initial team of doctors from Japan, Nepal and Bangladesh later this month as a test run to offer medical aid to refugees in Bangladesh who are fleeing repression by the Myanmar military.

The AMDA is also establishing bases in the Asian countries for its teams.

Said Suganami, "I hope the AMDA will contribute to international society through medical work."

英文毎日

カラオケめぐり殴り合い

傷害致死容疑で逮捕

大田で運転手

警視庁蒲田署は十二日未明、東京都大田区西糀谷二丁目、トラック運転手太田道彦容疑者(三三)を傷害の現行犯で逮捕した。同署によると、太田容疑者は同日午前零時半ごろ、同区大森南二丁目のスナックで、近くの作業員宮本一

今回のアジア多国籍医師団構想の「ミャンマー難民緊急救援パイロットプロジェクト」実施にあたり日本、バングラデッシュ、ネパールの3カ国の合同医療チームの編成が非常に円滑にいきまされたことは今後の救援活動に対する明るい状況と展望が感じられます。

今後は現地情勢を十分把握分析しながら難民支援医療活動を続けていきたいと思っています。期間は3カ月から6カ月を予定しています。

このプロジェクトはチーム編成参加者数と運用資金力によって継続期間が決まります。会員の方々の積極的な医療チームへの参加を募集しています。お問い合わせは本部事務局までお願いいたします。

現在、国際貢献についての多くの議論があります。執行部としては下記の2点を会員の皆様と相互確認したく思っています。

- 1) GO と NGO は補完関係にある。
- 2) 国家百年の計のもとに NGO を育成する時である。

GO と NGO は敵対関係にあるような議論があるのは残念です。各々のできることとできないことをしっかりと把握／認識したうえで共に国際貢献に連携すべきです。

GO の持つ資金／行政および外交ルート／情報と NGO の持つ人道的理念と人的資源は補完関係になって評価される本格的な国際貢献が可能になると考えています。

01c

ら、日本、ネパール、バングラデッシュの三方国籍医師団をバングラデッシュ・チッタゴン市に派遣。五、六人が一チームになり、交代でミャンマー難民(ことば欄参照)に対する医療協力をする。

AMDAは、一九八四年に、岡山市で内科医院を経営する菅波さんの呼びかけで設立。会費や企業からの基金を財源として活動。湾岸戦争難民や

岡山の民間 ネットワーク

アジア十三カ国、約四百人の医師で作る民間ネットワーク「アジア医師連絡協議会(AMDA)」本部・岡山市、菅波茂代表(四モ)は、災害発生時などに「アジア多国籍医師団」を緊急派遣できる態勢づくりを進めている。NGO(非政府組織)活動の一つで、来年五月から実施の予定。テストケースとして今月末か

フィリピンのピナツボ火山噴火被災者救援プロジェクト、留学生などの在日外国人のための医療ネットワークづくりなどに取り組んでいる。

アジアへ「多国籍医師団」

来年5月から、災害時など



菅波 茂医師

ア各地での「拠点」づくりに取り組む。菅波代表は「アジアの医師がともに緊急医療援助に汗を流し、お互いの信頼感を育てていきたい。日本の国際貢献の新しい形となるのではないか」と話している。

三カ国医師団の第一次チームには、日本からは津曲兼司・菅波内科医院副院長(三モ)ら二人が参加。四月十日にチッタゴン入りしてネパールの医院内)。

問い合わせは、AMDA事務局(0862・847676)菅波内科医院内)。

師らと合流。AMDAバングラデッシュ支部の医師らと共同で医療キャンプを設置。軍事政権下にあるミャンマーから流出した難民の病氣治療や予防接種などにあたる。派遣費用は五百万円を目標に募金する。

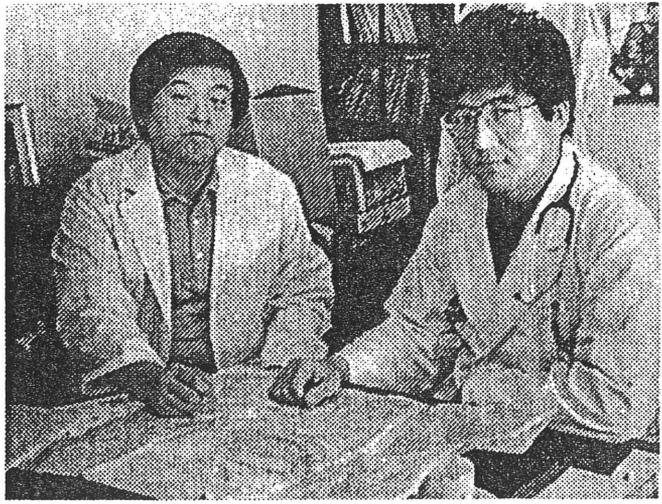
医師団派遣と同時に、来年のアジア多国籍医師団事業実施に備えてアジア

ok

ミャンマー難民救済

「バングラデシュで1人でも多くの人を救いたい」と話す山本、津曲両医師（左から）

92.4



日本人医師ら12人派遣

今月中旬 バングラへ

アジア医師連絡協

アジア医師連絡協議会（AMDA）本部・岡山市櫛津、菅波医院が、ミャンマー難民を救うため、日本など三国の医師団を今月中旬バングラデシュへ派遣、現地の医師と協力して医療活動を進める。来年五月には国際緊急救援チーム「アジア多国籍医療団」を正式に編成する予定で、今回は試験的活動の一つ。菅波医院からは津曲兼司医師（三）が十日に出発、山本秀樹医師（三）が続く。菅波代表（四）は「これまでの経験を生かし、頑張って欲しい」と期待している。

バングラデシュでは、軍事政権の圧政などのためにミャンマー国内で迫害を受けた少数民族・ロヒンギア族約二十万人が難民生活を送っている。現地の衛生環境は劣悪で、難民たちは草や木で作った小屋に集団で住み、雨期には伝染病の流行も心配されている。

医師団は津曲医師ら日本人とネパール、バングラデシュから日本の大学へ留学している医師たち。今のところ計十二人が参加を表明している。ネパール本国から現地入りする医師らと合流、協力して病気の治療に当たる。日本から浄水器を持参して飲み水を浄化、紙芝居などを使った衛生教育も行つ。津曲医師は「一人でも多くの人を救いたい」と意気込んでいる。

AMDAは、アジア十三か国の医師約四百人で構成。情報交換を図り、緊急を要する被害地での適切な救援活動を目標に昭和五十九年に設立された。これまで

で、湾岸戦争で被災したクルド人やフィリピン・ピナツボ山噴火の被災者らの救援に医師を派遣、医療品を送るなどの活動を展開している。

今回の活動費は同会の募金が主な資金源。五百万円を目標にしているが、まだ達成できておらず、同会では「アジアの人々と共存していくためにも協力して欲しい」と訴えている。問い合わせは同会本部（電〇八六二一八四一七六七六）へ。